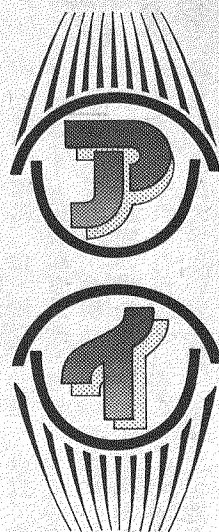


猫で捨て犬で捨て

当世「ペット」事情①

全国のペット数は大七百万、猫五百二十万匹ともいわれ、実に日本人の十人に一人がペットを飼っていることになる。しかし、その人気の裏側で大きな社会問題となっているのが捨て犬、捨て猫の問題。特に捨て猫は年々増加しており、それらのほとんどは行政に引き取られ、尊いいのちを奪われることになる。そこで二回に分けて、捨て犬、捨て猫の現状や背景、問題点を探ってみることにした。



昭和四十
八年に制定
う。

「この法律は動物に

愛情と責任を持つて

「動物のために何ができるか」

ついでに正しい認識を
深めるとともに、捨て
る習性などがあるが、ほとんでは安
をよく理解
定されたものだが、一
元年度に犬千八百九十
九匹、猫千四百四十
匹が保健所あるいは家
庭動物相談所に引き取
れたが、飼育目的で
飼い主からの依頼で
行政に引き取られた犬
数は子犬百二十一匹、
成犬一匹にすぎなかっ
た。全国でも毎年七十
万匹以上が処分され、
そのうち、新しい飼主
を求められた場合

に引き取られることも
あるが、ほとんどは安
楽死処分となる。
京都市の場合、平成
元年年度に犬千八百九十
九匹、猫千四百四十
匹が保健所あるいは家
庭動物相談所に引き取
れたが、飼育目的で
飼い主からの依頼で
行政に引き取られた犬
数は子犬百二十一匹、
成犬一匹にすぎなかっ
た。全国でも毎年七十
万匹以上が処分され、
そのうち、新しい飼主
を求められた場合

が痛む。実際に現場で
たずさわっている人に
とつても、「引き取り
先に小さな子供がいる
時には、必ず、おっ
ちゃん、その犬どうなる
の」と聞かれ、答えに
窮してしまふ」と、京
都市南区の家庭動物相
談所所長で、獣医でも
ある諏訪直秀さん。
現在は、死ぬ時点で
苦痛を伴わないとの理
由から、全国的に高濃
度の炭酸ガスが用いら
れ、その結果として生
まれた子猫については、
保健所で殺されるの
はかわいそう。だれか
心のやさしい人に飼っ
てほしい」と、人目に
つきやすいところに置
き去りにする。



家庭動物相談所に収容されている犬たち。この檻
に入れられるとほとんどの犬が安楽死処分となる
＝京都市南区

行政などに寄せられ
る苦情は糞尿に関する
ものが多く。アスファ
ルトでも平気で糞をす
る犬に対し、猫はその
習性から畑や公園の砂
場など柔らかな場所
で排泄することから、周
囲の反感を買うこと
になる。また、ゴミ置
場に出された生ゴミや
残飯を食い散らしたり、
発情期の鳴き声など
は、放し飼いにされる
ことの多い猫にとつて
はごく自然の行動なの
だ。

その上、猫は繁殖力
が強く、多い時で年四
回子猫を生む。むやみ
な繁殖を望まない飼
主には避妊、去勢の必
要性が法律で謳われて
いるが「自然の摂理に
反する」「かわいそう」
「面倒」などの理由か
ら手術を受けさせない
飼主が多い。

「日本人には動物に
対する慈しみの心が強
いと思うが、かわい
い」「かわいそう」と
いう一時的な感情に左
右されることによつて、自己満足はでき
ても近隣に迷惑をかけ、
不幸な生涯を送る猫を
生み出しているという
事実をもっと真剣に考
えてもらいたい」と池
沢さんは訴える。
つまり、動物愛護家
を自認している猫好き
人間が、逆に猫嫌いを
作っているのであり、
必要なことは人間と動
物の調和のとれた共存
で、自分たちの考えを
主張するだけではな
く、相手の立場や考え
にも耳を傾け、その間
に立つ動物のために何
ができるのかを考えて
いくことなのである。

「ゆたかな生、あたたか
な死」ヒュー活動を追う